



IHI 運搬機械株式会社  
代表取締役社長

大坪 英志

常にチャレンジし  
進化し続ける  
ものづくり企業でありたい!!

## 事業内容

IHI 運搬機械株式会社は、1937年、当時の株式会社大阪工機製作所の創業に端を発し、1973年に石川島沼津輸送機株式会社（現当社）となり、その後も統合、合併を重ね、1996年には東京証券取引所市場第二部に上場するなど、IHI グループの陸上部門の中で、パーキング（機械式立体駐車場）事業と運搬機械事業を担う、業界のリーディングカンパニーとして広く社会に貢献して参りました。最近のトピックスとしては、電気自動車対応のパーキングや東京スカイツリー®建設で活躍するジブクライミングクレーンが挙げられます。

## 経営理念・経営方針

当社の経営理念は「信頼される技術で、お客さまに満足いただける製品とサービスを提供し、社会

の発展に貢献する」であります。時代が要求する製品を提供し、その製品を最良の状態で維持管理・メンテナンスに努め、お客さまに満足していただくことが当社の社業と認識しております。

## 会社運営上での基本的な方向性

当社の会社運営上での行動指針は次の三点です。

一つ目は「品質・安全を最優先とする」ことです。さまざまなステークホルダーの皆様が築き上げてくださった当社の基盤、基礎の上に新たな付加価値を積み上げていくなかで、会社一丸となって品質と安全の確保に努めて参ります。

二つ目は、「製品のライフサイクルを通してお客さまに満足してもらえぬ企業」になりたい、したいということです。当社の製品はお客さまに長年にわたって使用されるものであり、そのライフサイクルを通してお客さまに安心して使っていただけるよ

う、メンテナンスや部品供給を含めた万全の対応をし、お客さまから信頼され続ける企業を目指しております。

三つ目は、「現状に満足せず常に進化し続ける企業」です。当社を取り巻く経営環境は従来の延長線では考えられないようなスピードで大きく変化しています。現状に満足せず、あるべき姿を求めて常に進化し続けることを、従業員全員が自然に行動をとるような企業風土を築いて参ります。

### 今後の経営環境と具体的な施策

今後、我が国の経済は景気が底を脱し、緩やかな回復基調をたどると考えられますが、依然不透明さが残ると考えられます。このような経営環境のもと、新たな受注に果敢に挑戦していくとともに、全社一丸となって生産性の向上を図り、収益を確保すべく、以下の施策に取り組んで参ります。

#### <受注の確保，収益の拡大>

既納製品の延命化や製品固有の特性を活かした提案営業など、お客さまの視点に立った製品・サービスのメニューの拡充を図って参ります。

また、アジア市場を中心とした受注を拡大すべく、その中心となる拠点の設立など、海外事業展開のためのネットワークを整備して参ります。

さらに、厳しい受注環境のもとで収益を確保するために、海外調達および海外協力会社との連携強化などによって、採算性を確保して参ります。



エレベータパーキング



ジブクライミングクレーン

#### <品質・安全の確保>

「市場での競争力向上」および「製品・サービスの高付加価値化」を推進するため、技術者の育成や設計技法の改良・効率化などを行い、技術力の強化および品質の向上を図って参ります。

また、労働災害の発生防止と災害の極小化のために、設備・工法・作業管理・安全意識などの各方面から見直しを行うとともに、安全確保の原点に立ち返った危険に対する感性の向上およびリスクアセスメントを中心とした施策に取り組んで参ります。

#### <企業の社会的責任>

当社が社会から信頼され続けるため、コンプライアンス意識の向上など企業の社会的責任（CSR）を果たすとともに、与信管理などのリスクマネジメントへの取り組みを強化して参ります。

さらに、社会的な環境意識の高まりに伴い、環境への負荷低減を考慮したCO<sub>2</sub>削減、省エネ、電気自動車、お客さまのニーズをとらえた自動二輪車用駐車装置などに対応した新技術・新製品の開発を行って参ります。

これらの施策によって、企業価値の向上を図り、さまざまなステークホルダーの期待にこたえて参ります。